

NTS物語

吉田 隆

三、ビジネスモデルの確立に向けて

⑤「配達センター」稼働！

新刊発刊の3ヵ月後に売上が急減する“3ヵ月病”対策の拠点として平成8年4月にスタートした「市川営業所」に設けた発送分室では、平成9年11月発刊の「現代おさかな事典」から、バーコードによる書籍の個別管理システムを導入した。これを機に、アプリケーションをMS-DOSベースの「桐」からWindowsの「Access」に切り替え、「お魚」から稼働を始めたシステムは順調に滑り出しだが、本社では「お魚」を除く全書籍の受発送業務から請求書発行等の事務業務に至るまで、依然「桐」で構築されたシステムを使用していた。本社から分離された状態で「お魚」単品を取り扱う制約を越えて、本社と市川営業所が連携して稼働できる全社的システムへ移行するには、営業・物流業務全般にわたる全般的な見直しが必要だった。

各部門のスタッフ増加に伴うスペース不足から、平成10年に本社の書籍発送部門を市川営業所に移管した経緯については、前号で述べた。

転居後の配達センターの最初の目標は、「お魚」単品しか取り扱っていなかつたバーコードシステムを、全商品対象へと広げることであった。そのためには、「桐」で行なっていた本社の書籍管理システム

を、「Access」に切り替えるなくてはならなかった。時期を同じくして2000年問題も対応を迫られたが、システム開発室の不断の努力が実り、平成11年1月4日より、本社と市川営業所を結ぶ「Access」によるリアルタイムの「全書籍の発送・返本管理」システムが稼働を開始した。

さて、発送部門が転居しても、「ヒラヤマビル」4階のスペース不足は根本的な解消には到らず、大がかりな対策が必要な状況に変わりはなかった。そんな折、事態は思わずところから好転することになつた。オーナーの平山さんから嬉しいニュースが飛び込んできたのであった。頃あいよくヒラヤマビル1階と地下1階のテナントが撤退することとなつたため、一もなく二もなく、平成11年1月から空いた二フロアを新たに賃借することにした。両フロア合計で64坪のスペース増により、本社全体のスペースが75%ほど拡張されたため、移転からわずか8カ月足らずで、市川の発送部門を本社地下1階に呼び戻すことを決意した。その結果、本社の4階と地下1階の間で書籍管理システムを再整備できる環境が整つたのである。

データベースと営業データのより完璧さを目指した整理・統合や、営業部員全員が端末で顧客とリアルタイムにやりとりできるような社内LANとの一体化など、試験システムの高度IT化を視野に入れつつ、新たな配達センターを構築していくことが、現在の課題である。

データベースと営業データのより完璧さを目指した整理・統合や、営業部員全員が端末で顧客とリアルタイムにやりとりできるような社内LANとの一体化など、試験システムの高度IT化を視野に入れつつ、新たな配達センターを構築していくことが、現在の課題である。

書籍管理システムの「桐」から「Access」への乗り換えは、「お魚」→「全書籍」→「顧客データベース」→「事務業務」の順に発展してきたが、さらに大容量、高速性、高拡張性を備えた別のデータベースソフトへの乗換えが進行中である。

データベースと営業データのより完璧さを目指した整理・統合や、営業部員全員が端末で顧客とリアルタイムにやりとりできるような社内LANとの一体化など、試験システムの高度IT化を視野に入れつつ、新たな配達センターを構築していくことが、現在の課題である。

■社内清掃について

次の日程で床掃除を行いますので、宜しくお願ひ致します。当日出勤予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

本社事務所内	2月24日(日)
営業部内	2月16日(土)

◆皇居周回駅伝にエントリー
2月11日(祝)に開催される第52回皇居周回駅伝(千代田区主催)の一般の部に、当社から2チームが参加します。皆さん、多数の応援をお待ちします。

日時	2月11日 午前9時半～12時
場所	皇居桜田門



掲示板

■今月の人事

入社 営業部営業二課



NTSニュース二〇〇一年一月(通巻三十八号)
二〇〇一年一月三十日発行

◆編集後記◆

新しい年を迎えるNTSニュースも新体制の下、企画がスタートしました。今後は単なる社内報にとどまらず、広範囲に情報発信していくアクティブラジオ番組を目指しています。なかでも、当社と縁の深い研究者の先生方をクローズアップしていく企画は、専門知識のバックグラウンドや意外な侧面などを知ることができ、大いに編集者冥利に尽きます。記念すべき第1回にご登場いただいた遠藤先生とは「未来材料」創刊準備期間の3年前からお仕事を一緒にさせていただいてますが、今回初めて推理小説ファンであることを知りました。お気に入りは森村誠一、松本清張作品などによく見られる、社会悪に立ち向かいながら人間の生きざまをしつかり描いた作品のこと。未来をオーバービューしていく雑誌づくりの理念は、読書傾向からも伺えるようです。(な)